

【入札妨害事件関係】

2026/9/28

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事案に係る新聞報道（抜粋）
46	R8.7.6	第7回公判 相沢被告 →設計会社社員（元社員含む2人）に対する証人尋問が行われ、閉廷。		7月7日：相沢被告の第7回公判を受けて報道 ・相沢被告らに商品券10万円を贈った設計会社の元社員と入札公告案の修正に関わった社員の2人が出廷し、商品券を贈るに至ったいきさつや入札公告案が修正された経緯などについて証言した。 ・商品券を送った元社員は、2020年に（都内の）設計会社が新庁舎基本設計業務を受託する際、相沢被告と前副市長、グンエイから支援を受けたことについて「恩義を感じていて、何かの形で返したいと思っていた」と証言。 ・新井被告から商品券を贈ることや贈る際には表書きに「設計会社名」を書かず、代わりに名刺を中に入れた方がよいことなど助言を受けたことを話した。「怒られるか喜ばれるか分からず、いちかばちかで送ったので（発送後は）そわそわしていた」と証言した。 ・弁護士側から贈賄の違法性を認識していたか聞かれると「10万円という金額は自分にとっても大きな金額。違法なことだと認識しており、上に報告できなかった」と述べた。 ・同社員は関東建設工業、グンエイ側から入札公告案の修正を求められた経緯についても証言し、2社側から送られてきた公告案の修正要望について「2社が露骨に有利になるもので、そのまま反映すれば市執行部などに発覚する危険があった」と述べた。その上で「2社の要求をある程度反映させて満足させながら、市側と設計会社内が納得できる現実的な内容に調整する必要があった」と証言した。 ・2社の要望を一部反映した公告案を作り、市側に送った社員は、公告案の要望反映について「違法なことだと分かっていたが、（2022年5月のグンエイ本社会議で）上司が何時間も要望反映を迫られ、やるしかないと思った」と述べた。 ・次回公判は7月27日、相沢被告への被告人質問が行われる予定。
47	R8.7.7	第8回公判 新井被告 →設計会社社員（元社員含む2人）に対する証人尋問が行われ、閉廷。 ※ 証人2名は、前日と同様。		7月8日：新井被告の第8回公判を受けて報道 ・桐生市から公告案の作成支援を受託した都内の設計会社社員が証人出廷し、業者側に検討中の公告案を流出させることについて「良くないことだという認識はあった」などと証言した。 ・社員は2022年6月、7月に計2回、関東建設工業やグンエイ側から公告案の修正要望があったと説明。公告案の流出や修正に反対しなかった理由について、会社の方針として決まったことであり「（社員の中で）やらないという方針にはなかった」と当時の胸の内を明かした。 ・弁護士側は「前副市長が設計を事件に関わった設計会社に受注させ、建設工事を関東建設工業を代表とする共同企業体（JV）に落札させるという構想を描いており、法的保護に値しない違法な入札だった」と前副市長の強い関与を訴え、無罪を主張している。 ・同社員は検察側の尋問に答える形で、一連の入札審査での前副市長の影響力について「強い発言権や決定権は感じず、主体的に関わっていた印象はなかった」と証言。新井被告側の主張とは、異なる見解を述べた。 ・次回公判は7月24日に開かれる予定。
48	R8.7.24	第9回公判 新井被告 →弁護士側から相沢被告ら4人の証人申請が行われ、閉廷。		7月25日：新井被告の第9回公判を受けて報道 ・今回の公判で弁護士側は、前副市長と共に事件に関わったとして、公判が続く相沢被告や公告案の作成に関わった市職員ら4人を追加の証人として、裁判所に申請。「設計から建設工事まで、前副市長の意向が強く反映されていたことを立証する」と主張した。 ・次回公判は9月4日に開かれる予定。

No.	日付	事件概要	市議会関係	本事業に係る新聞報道（抜粋）
49	7月27日	第8回公判 相沢被告 →相沢被告に対する被告人質問が行われ、閉廷。		7月28日：相沢被告の第8回公判を受けて報道 ・被告人質問で相沢被告は、一連の事件について「巻き込まれてしまった。今はこれからの人生がどうなるのかという思いが一番強い」と述べた。 ・これまでの公判で証人出廷した前副市長は、2020年の新庁舎建設基本設計の入札に当たり、非公表の情報を相沢被告に漏らしたと証言。相沢被告は「そのような事実はない」とし、実際に受注した都内の設計会社社員から漏洩を頼まれたこともないとした。 ・同年に前副市長とそれぞれ受け取ったとされる商品券10万円分について、「受け取ってもいないし、見たこともない」と否定した。 ・一方で「設計会社からお歳暮をもらうのは初めてだったので、忘れないうちにお礼の連絡をしただけ」と同社員に連絡したことを述べた。 ・2022年5月のグンエイ本社会議について、相沢被告は「新井被告から事前に発言内容を細かく指示された」と主張。 ・検察側はグンエイ会議の音声データを再生。相沢被告とされる男性の声で、関東J Vの工事落札が市長・副市長の意向であるかのような発言などが公開された。 ・相沢被告は検察側から発言の意図を問われると「市長と副市長に意向を直接聞いたわけではない。新井被告から発言を指示された」と主張。そのほかの音声の意図についても「指示されたもので、記憶にない」などと繰り返した。 ・2025年5月に自民党（逮捕後に離党）県連の県議団長に就任したが「後ろめたさがあれば県議団長を受けていなかった」とも述べた。 ・次回公判は10月13日を予定。
50	R8.8.21	桐生市が全職員を対象とした入札契約制度の事務適正化研修を開催 →講師は公正取引委員会の栗城氏。		8月22日：研修結果を受けて報道 ・栗城さんは研修で「入札談合は、公平かつ自由な競争で受注者や受注価格を決めようとする入札システムを否定する行為。円滑な入札や品質確保、共存共栄などといった理由で正当化されるものではない」と断言した。 ・「職員の皆さんには入札談合への関与について、ぜひ自分事として捉えていただきたい。官製談合防止の取り組みを平時から継続的に取り組んでほしい」と訴えた。
51	R8.9.4	第10回公判 新井被告 →グンエイ元副社長に対する証人尋問が行われ、閉廷。		9月5日：新井被告の第10回公判を受けて報道 ・2022年5月に同社で開催した会議には県議の相沢被告、元副社長含む同社社員、関東建設工業、桐生市から公告案の作成支援を受託した都内の設計会社が参加し、公告案をJ V側に共有することが決まった。 ・出席者間の連絡調整について、元副社長は「全員に声をかけてくれたのは新井被告だった」と述べた。 ・追加の証人を求める弁護側に対し、品川裁判官は10月中に被告人質問を行うことを提案した。 ・次回公判は9月10日に開かれる予定。
52	R8.9.10	第11回公判 新井被告 →関東建設工業 元営業部長に対する証人尋問が行われ、閉廷。		9月11日：新井被告の第11回公判を受けて報道 ・元営業部長は、桐生市から公告案の作成支援を受託した都内の設計会社側から公告の原案を受け取り、内容を修正したと証言。原案は別の建設会社寄りだったとし、関東J Vに有利にしたい気持ちと公正な入札にしたい気持ちが「半々だった」と振り返った。 ・自身と新井被告との関係については「グンエイとは主に元副社長と話すことが多く、工事の件で新井さんとはほとんどやりとりしていない」とした。 ・新井被告は無罪を主張しており、弁護側は追加の証人尋問などを求めているが、品川裁判官はこれに難色を示し、10月7日の次回公判で被告人質問を行う方針を決めた。